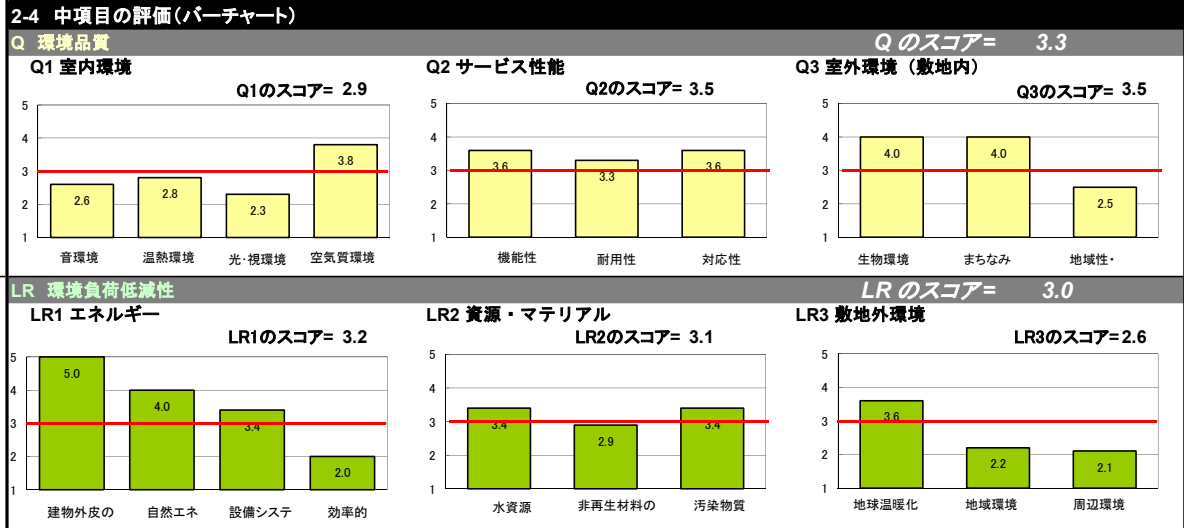
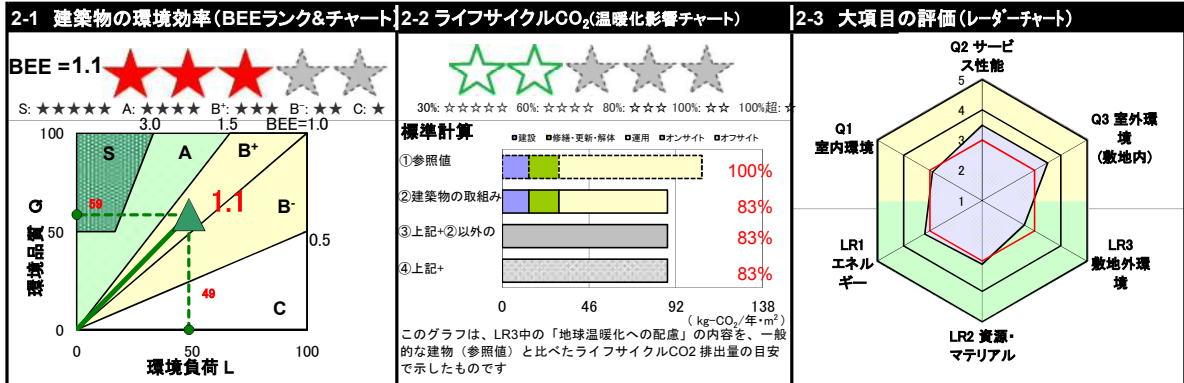


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	東洋システム(株)豊田センター(仮)	階数	地上3階
建設地	愛知県豊田市亀首町町屋洞191番5	構造	S造
用途地域	指定なし(市街化調整区域)	平均居住人員	10人
気候区分	5地域	年間使用時間	4,320時間/年
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年1月 予定	評価の実施日	2017年7月24日
敷地面積	3,000 m ²	作成者	村田真悟
建築面積	855 m ²	確認日	2017年7月24日
延床面積	2,191 m ²	確認者	村田真悟



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.6</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">20.7 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.1</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部							建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体
配慮項目		独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体		
Q 建築物の環境品質														3.3	
Q1 室内環境														2.9	
1 音環境															
1.1 室内騒音レベル														2.6	
1.2 遮音														3.0	
1 開口部遮音性能														3.0	
2 界壁遮音性能														3.0	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														3.0	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														3.0	
1.3 吸音														1.0	
【事務所】床:タイルカーペット、天井:ロックウール吸音板															
2 温熱環境														2.8	
2.1 室温制御														2.6	
1 室温														3.0	
2 外皮性能														3.0	
3 ソーン別制御性														2.0	
2.2 湿度制御														3.0	
2.3 空調方式														3.0	
3 光・視環境														2.3	
3.1 昼光利用														3.0	
1 昼光率														3.0	
2 方位別開口														3.0	
3 昼光利用設備														3.0	
3.2 グレア対策														3.0	
1 昼光制御														3.0	
3.3 照度														2.0	
3.4 照明制御														1.0	
【事務所】ブラインドの設置															
4 空気質環境														3.8	
4.1 発生源対策														4.0	
1 化学汚染物質														4.0	
F☆☆☆☆または告示対象外の建築材料を採用															
4.2 換気														3.3	
1 換気量														3.0	
2 自然換気性能														3.0	
3 取り入れ外気への配慮														4.0	
各種排気との離隔距離6m以上確保、かつ異方位に設置															
4.3 運用管理														4.0	
1 CO ₂ の監視														3.0	
2 喫煙の制御														5.0	
建築物内禁煙															
Q2 サービス性能														3.5	
1 機能性														3.6	
1.1 機能性・使いやすさ														3.0	
1 広さ・収納性														5.0	
2 高度情報通信設備対応														1.0	
3 バリアフリー計画														3.0	
1.2 心理性・快適性														3.6	
1 広さ感・景観 (天井高)														5.0	
2 リフレッシュスペース														2.0	
3 内装計画														4.0	
1.3 維持管理														4.5	
1 維持管理に配慮した設計														5.0	
2 維持管理用機能の確保														4.0	
容易なメンテナンス、機器更换のルートを確保															
2 耐用性・信頼性														3.3	
2.1 耐震・免震・制震・制振														3.8	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														4.0	
2 免震・制震・制振性能														3.0	
2.2 部品・部材の耐用年数														3.2	
1 躯体材料の耐用年数														4.0	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														3.0	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														3.0	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														3.0	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														3.0	
6 主要設備機器の更新必要間隔														3.0	
2.4 信頼性														2.2	
1 空調・換気設備														3.0	
2 給排水・衛生設備														2.0	
3 電気設備														3.0	
4 機械・配管支持方法														1.0	
5 通信・情報設備														2.0	

3 対応性・更新性				3.6	0.29			-	3.6
3.1 空間のゆとり				3.4	0.31			-	
1 階高のゆとり			【事務所】天井高3.0m	5.0	0.60			-	
2 空間の形状・自由さ				1.0	0.40			-	
3.2 荷重のゆとり			積載荷重を7500-3500-2500と設定	5.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性		②		2.6	0.38			-	
1 空調配管の更新性				3.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性				1.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22			-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.38			-	3.5
1 生物環境の保全と創出		独自③	高木、植栽帯を設置	4.0	0.30			-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	シルバーをメインとし、周辺になじんだ外観	4.0	0.40			-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30			-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50			-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50			-	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.0
LR1 エネルギー					0.40				3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			断熱性能の高いサンドイッチパネルを採用。	5.0	0.06			-	5.0
2 自然エネルギー利用			特になし	4.0	0.26			-	4.0
3 設備システムの高効率化			LED照明の採用	3.4	0.40			-	3.4
4 効率的運用				2.0	0.27			-	2.0
集合住宅以外の評価				2.0	1.00			-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50			-	
4.2 運用管理体制				1.0	0.50			-	
集合住宅の評価				-	-			-	
4.1 モニタリング				-	-			-	
4.2 運用管理体制				-	-			-	
LR2 資源・マテリアル					0.30				3.1
1 水資源保護				3.4	0.15			-	3.4
1.1 節水			節水器具(節水型便器、自動水栓)を採用	4.0	0.40			-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			-	
2 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			-	
2 非再生性資源の使用量削減				2.9	0.63			-	2.9
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07			-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		② 独自	なし	3.0	0.20			-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	なし	3.0	0.20			-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05			-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自		3.0	0.24			-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.4	0.22			-	3.4
3.1 有害物質を含まない材料の使用			使用なし	5.0	0.32			-	
3.2 フロン・ハロンの回避				2.6	0.68			-	
1 消火剤				2.0	0.33			-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.33			-	
3 冷媒				3.0	0.33			-	
LR3 敷地外環境					0.30				2.6
1 地球温暖化への配慮		①	積極的に緑化を行っている	3.6	0.33			-	3.6
2 地域環境への配慮				2.2	0.33			-	2.2
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			-	
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50			-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.0	0.25			-	
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25			-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 交通負荷抑制		独自	車輛の出入りを円滑にすることで周辺道路への渋滞緩和に寄与	1.0	0.25			-	
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25			-	
3 周辺環境への配慮				2.1	0.33			-	2.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-	
1 騒音		独自		3.0	0.33			-	
2 振動		独自		3.0	0.33			-	
3 悪臭				3.0	0.33			-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				1.6	0.40			-	
1 風害の抑制				1.0	0.70			-	
2 砂塵の抑制				3.0	-			-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			-	
3.3 光害の抑制				1.6	0.20			-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				1.0	0.70			-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-	

重点項目スコアシート

東洋システム(株)豊田センター(仮称)

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.6
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10	
② 資源の有効活用				3.1
Q2-2	耐震性・信頼性	3.3	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.19	
③ 敷地内の緑化				4.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	4.0	0.11	外構緑化:20.7%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 東洋システム(株)豊田セン

計画上の配慮事項	
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・CASBEE愛知(2016年度版)による評価結果。 ・外構の緑化を積極的に行い、生物資源の創出や温熱環境負荷の工場に配慮している。
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> ・昼光利用を積極的に行うことで環境に配慮している。 ・グレア対策、昼光制御としてブラインドを設置し、室内環境の向上を図る。
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> ・耐用年数の長い外装材、ダクト、配管材を採用し、建物の耐用性の工場に配慮する。
Q3 室外環境(敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺のまちなみ・建物との調和、植栽による良好な景観の形成を目指し計画した
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・設備機器においてはLED照明などの省エネ機器を採用した。
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> ・断熱性能に優れたサンドイッチパネルなど、環境性能に配慮した建材や材料を使用している。
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> 注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・外部への騒音に配慮し、室外機置き場の位置を2棟間に設置。
その他	